

# 令和4年度第3回嘉麻市立図書館協議会 会議録

1. 審議会等の名称 令和4年度第3回嘉麻市立図書館協議会
2. 開催日時 令和5年3月20日(月曜日)午後2時00分～3時08分
3. 開催場所 嘉麻市役所 碓井総合支所 2階 会議室4
4. 公開又は非公開の別 公開
5. 出席者
  - (1) 委員
    - ・下川和彦会長・江藤さよ子副会長・近藤一崇委員・北富真治委員・坂田統穂委員
    - ・中島暁子委員・和田君子委員・春口香委員
    - (欠席)・・・山口希代子委員
  - (2) 執行機関
    - ◎ 生涯学習課
      - ・課長(館長)末永康洋・課長補佐 上野智裕・係長 山本博子・藤原千晶(司書)
    - ◎ 指定管理者
      - ・統括責任者 下田富美子・チーフ 藤本あすか
6. 傍聴人数 0人
7. 議題
  - 1) 令和4年度事業総括について
  - 2) 令和5年度嘉麻市立図書館事業計画(案)について
  - 3) その他
8. 審議の内容  
(会議録の確認者の決定) → 和田委員に決定
  - 1) 令和4年事業総括について・・・原案のとおり承認  
事務局(指定管理者)から、資料に基づき補足説明を行った。  
(説明要点)  
**指定管理者より**
    - ・資料購入の際、4館で重点収集を考えて購入し、市内は配本車で本を取寄せながら有効に活用している。また、購入した資料を活用するために、いろいろな展示や棚の置き方をわかりやすくするなどしている。乳幼児向けおはなし会等では、新型コロナウイルスの影響で減った子どもたちが戻ってくることは難しいが、保育園やブックスタートでの声掛けを行う事で少しずつ増加しているように思われる。引き続き声掛けを行っていく。
    - ・お金の講座を初めて行った。この講座は大丈夫なのかと心配の声もいただいたが、図書館で学ぶことを提供するために今後もいろいろな講座を開催していく。
    - ・山田では新刊は表紙をみて選べるよう棚を移動した。嘉穂はこれまで入口付近に

新刊図書を設置していたが、図書館の奥まで人が行く動線になるよう、設置場所を奥に移動した。

・ボランティア講座は、今回紙芝居の講座を開催した。覚えて語りことや絵本を読むことは難しいという方もおられることから、そのまま見て読める紙芝居の講座を開催し、図書館を盛り上げていただく応援団になっていただきたく、開催した。

・展示について、図書館だけでなく外部団体である里親包括支援団体やがんの子どもを守る会等ともコラボし、社会的に知って欲しい課題等を企画した。

(質疑)

・「図書館で学ぶお金の話」は、どのくらいの参加者だったのか。また、広報はどうされたのか。

⇒30人募集し、当日32人の参加があった。老後のお金の話がテーマであったことから、高齢の方の参加が多かった。広報はHP、Facebook、広報誌や図書館だより等で行った。

・各館の除籍本を集めて行った古本譲渡会はどこで開催したのか。

⇒稲築地区公民館で行った。

・ボランティアの研修会開催後にボランティア活動をする人は増えたのか。

⇒サークル活動をされる方はおられないが、個人で登録していただいた方はおられる。今後、活動の支援も行っていく。

・コラボ企画展示「フォスタリング（里親養育包括支援）機関」とあるが、これは2館で、「がんの子どもを守る会」は4館で展示したということか。

⇒そのとおり。フォスタリング機関は、嘉麻市内ではないが田川地区等で活動されている団体で、自分たちの活動や里親のことなど、もっと知って欲しいと依頼があり行った。

## 2) 令和5年度嘉麻市立図書館事業計画（案）について・・・原案のとおり承認 事務局（指定管理者及び図書館係）から、資料に基づき補足説明を行った。

(説明要点)

### 指定管理者より

・指定管理業務仕様書に基づき事業を行う。

・移動図書館車「てんとう虫号」をいろいろなところに運行したいと考えている。現在、希望された学校や保育園、施設、地域に運行しているが、まだご存じない方もおられることから、人が多く集まるイベント等に伺って、このようなサービスも行っていることを伝えていきたい。てんとう虫号は今年で30歳になる。そのことも併せて伝えていきたい。

・おはなし会も定例のものに加え、読書週間にはスペシャルなプログラムを準備し、普段来られない人にも参加してもらえよう考えている。

・子ども向けに、夏に図書館を使った調べる学習コンクール地域コンクールを開催する。子どもたちが自分で課題を見つけ、調べて知ることを学び、知ったことを誰かに伝えることがコンクールとなっている。子どもたちに、図書館には調べる道具がたくさんあることを伝え、それを活用し、将来にわたって学び、調べる力をつ

け、学ぶことが楽しいと感じてもらえるきっかけとなればと考えている。

- ・大人向けとして、秋の読書週間の時期に医療セミナー、2月頃に落語会の開催等を考えている。

- ・美術館とのコラボ企画として、夏の企画展にワークショップ等を考えている。

- ・学校との連携として、先生方が利用しやすく、子どもたちに資料をより活用していただけるよう、学校の単元やテーマに併せた貸出しセットを準備していく。また職場体験やインターンシップ等、図書館ではどのような仕事をしているのかを学び、体験していただけるよう積極的に受け入れる。

- ・広報について、なかなか情報が届いていない現状もあるため、必要な方に必要な情報が届けられるよう努力していく。

## 図書館係より

- ・図書館管理運営として、111,500千円計上している。そのうち、福岡県子どもの読書習慣形成・定着支援事業として碓井義務教育学校のご協力をいただき、学校のなかで「本のポップづくり講座」を開催する予定にしている。

- ・新型コロナウイルス感染症への対応も少しずつ変わってきており、ボランティアの皆様も活動の場も増えてくることから、意見交換等の場として嘉麻市図書ボランティア連絡協議会代表者を再開するなど、指定管理者と協力し、活動のお手伝いをしていきたいと考えている。

(質疑)

- ・1頁4番の課題解決の欄に「図書館アンケートを実施」とあるが、対象者は子どもなど決まっているのか。

⇒対象は利用者全般であり、来館者だけでなく、インターネットでの回答も受け付ける。

- ・郷土の歴史や文化のことをクローズアップしたような特集展示等あればいいと思う。嘉麻市教育研究所で嘉麻かるたを作成されており、学校でも少しずつ活用している。ふるさと学習等もあり、郷土の歴史や文化に触れる機会も多くなっているので、子どもたちの身近な公立図書館の中にもあればいいと思われることから、何らかの位置付けをしていただければと考えている。

⇒子ども向けには、郷土のことを知るといのは調べる学習コンクールのテーマにもしたいと考えている。大人向けにも、今年度歴史を知ることがテーマにした講座を開催している。地元の方から自分の知っていることをみんなに伝えていきたいとの話もいただいている。ぜひ皆さんに知っていただけるよう、講座等を開催していきたい。

地域のことを知らない大人も増えてきている。子どもたちに伝える前に、まずは大人たちが地域のことを知っていくことが大切と考え、民話についての講座を開催した。今後も、公民館事業のときめき学習等とも連携しながら子どもたちに伝えていきたいと考えている。

⇒「郷土を愛する子どもの育成」というのは教育委員会の大きな柱の一つでもある。嘉麻かるたについても、市の子ども会連合会でも少しずつ活用いただけており、図書館というカテゴリの中でも関連して浸透していけばと考えている。ま

た、先ほども申し上げた子どもたちだけでなく大人も知ってもらうことが大切だと考えている。山田図書館にも高取焼という茶碗の本物を展示しているが、ご存じの方も少ないのではないかと思います。そこも含めてPRしていければと考えている。3月議会の一般質問でも古文書関係や民話をもっと広めてはどうか等の質問をいただいた。議員の方も地元の唯一無二の民話等をプロモーション化し、発信してはどうかとのアドバイスもいただいております、機運も高まっていると感じている。

・調べる学習コンクール地域コンクールの「地域」というのは自治体単位のエリアなのか。

⇒調べる学習コンクールは全国で行われており、地域コンクールは嘉麻市で行うものになる。

・地域コンクールは1つのテーマが提示されるのではなく、それぞれが思い思いのものを図書館で調べて発表するものなのか。

⇒テーマは自由なので、科学的なものから国語的なものまで全科目に亘って、自分で選んで、自分で調べるということになり、これは大人も子どもも参加できる。

・「山田ブギウギ」とは何か。以前から行われているものなのか。

⇒山田地域での方々に開催されているお祭りのようなもの。そこに参加させていただくことにしている。今年度で3回目くらいではないかと思う。

・4月23日の子ども読書の日だが、学校は新学期がスタートしてすぐの時期であり、取組む間もなくお知らせだけで終わってしまうことが多い。嘉麻市の読書に関する記念日等設定できるものがあればいいのではと思う。なにか根拠となることがあれば、その日を嘉麻市独自で読書の日を設定し、みんなで本を読むきっかけの日になればと思う。

⇒市民の皆さんに意見を募ってみるなど考えてみても面白いと思う。

・コロナの交付金もあり電子図書が注目され、自治体で進められているところもある。導入の際は交付金等活用できるが、運用する際の資料については財産にはならず、毎年使用料がかかる。長い目で見ると電子図書は必要なものとは考えるが、各自治体で運用するにはコストがかかるため、長くサービスを続けていくためにも、県立図書館で導入し、各市町村の図書館は県立図書館に負担金を支払うことで費用を負担する。運用面では各市町村の図書館が窓口となり、利用者の方へお知らせする等いろいろと検討してほしい。

⇒電子図書については、避けて通れないと考えており、先日も筑豊地区公共図書館等協議会で電子図書の可能性と課題について、先進地である東大阪市立図書館の事例について研修会を開催した。その中で、紙媒体の図書と電子図書とのハイブリッドで活用していく必要について認識したところだ。嘉麻市でも最初のプラットホームの費用がネックになると考えている。嘉麻市ではコロナ交付金活用の際にも電子図書に着手していない。近隣で電子図書を導入している自治体もあるが、今後の展開について方策を検討されている様子も見受けられる。本日伺ったお話しも含めて、今後の方向性を検討していきたいと考えている。

⇒図書館流通センターも全国で指定管理を行っており、そこで電子図書を導入している図書館もある。なぜ図書館で電子図書をという意見もいただくが、公共図書館で購入していない問題集等の資料を購入する等ジャンルでの住み分けや、電子図書を使い慣れた人は使いやすい電子図書を活用していただく等の住み分けができればと考えている。先ほどのお話のように、県立図書館で導入していただくというのは市立図書館としてもありがたいと思う。

・県立図書館では、既に電子図書を導入している。県立図書館であるため、もちろん県民の方を対象にサービスを行っており、利用者カードを作成いただければ活用いただける。

・福岡県視聴覚ライブラリーなどは各自治体が分担金を支払い、各学校が視聴覚資料を活用している。同じように県立図書館が直営で行うのではなく、協議会等が運営し、各自治体が使用料や分担金等負担する仕組みができれば上手く運営できるのではないかと。

・県立図書館として電子図書を貸出しているが、自治体の公共図書館で検索したときに県立の電子図書も含めて一括で資料検索等できれば、利用者の利便性が向上すると思われる。

#### 4) その他

令和5年4月1日から、図書館係と美術館係が一緒になり、図書・美術館係となることが教育委員会で決定していることを報告。

#### 9. 配布資料

- ・令和4年度第3回嘉麻市立図書館協議会次第
- ・資料1 令和4年度嘉麻市立図書館事業総括（令和4年4月～令和5年1月）
- ・資料1（追加）令和4年度嘉麻市立図書館事業総括表
- ・資料2 令和5年度嘉麻市立図書館事業計画表（案）

上記に相違ないことを確認する。

令和5年4月13日

会議録確認者

和田君子